

# 残心 南ア北岳

TK

テマと、大展望を期待して、5回目の北岳も良いかなあゝとも思っている。

今回の山行の感想を一言で書けば『残心』。

会社勤めの時、実践と宿題ばかりの厳しかった講習があった。講師の終了時の言葉が、ざんしん『残心』であった。

講師の意図するところは、未練が残ってすつきり思い切れないという「心残り」ではなく、「心を残す」に近かった。やれることをやり、それで終わりではなく、心に留めて置き、更に一步先に踏み出す、そんな意味合いだったと理解している。

急登・岩・雨風の中、のんびりユツタリ歩き、晩夏／初

秋の花を愛で、小屋／車中で語らい、食事し、予期せぬ出来事に遭遇し今までには経験できなかった記憶に残るであろう北岳山行となった。

見つからなかった高嶺マン

【山行日】H 27年

8月20日～22日

【参加者】佐々木、J脇、

栗、TK





※花の名前は間違っているかもしれません。

## 念願の北岳

# たくさんの花に感動

佐々KMI

北岳に行ってきました。

私の中の北岳は怖い山としてありました。それは大宮労山で行く北岳が、バットレスとか大樺沢の雪渓とかそんなイメージしかなかったためです。でも密かにいつかは行ってみたいと思いついていました。そして昨年リーダーの克己さんに思い切ってお願ひしOKを頂きました。それなのに昨年は自信がなくなりキャンセルしてしまつたのです。今年こそはと再度克己さんにリーダーをお願いし、夢が実現しました。私の身の丈にあつたのんびりゆったり二泊の北岳山行です。

朝から雨模様の中、甲府駅に

メンバー四人が集合。雨だから

中止？なんて誰からもなく四人ともやる気満々です。三日間かけて制覇した北岳は日本のナンバー2だけあつて大きな山でした。天気には見放され、一日目にチラツとバットレスの一部が見えたのと、三日目の下山途中で鳳凰三山が雲の切れ間に眺められただけで、頂上はずっとガスの中でした。でもたくさんの花に出会い、特にシシウドの大群落とナデシコの仲間白いセシユガンピに感動しました。怖い山、北岳は登山道がしっかりと整備され、安全に登れる山でした。

最後に、今回私は北岳に登る

にあつて、この年齢まで経験した事のない「単独行」を決行しました。雨降りとか、なかなか山に行けない日が続き、このままでは北岳に行けないと覚悟をして、以前から一人で行くなら高尾山と決めていたので高尾から城山へと一人で行ってきました。何度も登つた山なので一人でも安心して登ることができました。ただ、たくさん登山者がいるのに、楽しいこと、苦しいことを共有する相手がいないのは寂しい限りでした。北岳では私ののんびりゆったり山行に付き合ってくれたリーダー、メンバーの皆さんに感謝です。次の山への自信にもつながりました。



## 北岳登頂

○栗

会報5月号の山行予定の欄で「のんびり ゆったり花見 & ピークハント南ア 広河原く北岳(往復)」が目止まりました。

のんびり ゆつたり山行なんて私にぴったりだ。行つてみたいなく・・・。リーダーの高橋さんにメールする。「私、登りになると急にペースが落ちるんですが大丈夫でしょうか？」リーダーにこんなメールする人は珍しいかも？・・・。高橋さんからお返事「ゆっくり晩夏の花を観ながら行きます」わあ！！嬉しい。頑張つて行くかと決める。

早速、ザック、雨具などを買いに石井スポーツに出かけた。ザックは今までの大きな

